

Broaden your horizons 84 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう児島恵美子です。

小泉今日子的に言うと、「艶姿(あですがた)エガオ娘」でした。先日、私が第47代部会長を務める日本青年会議所医療部会の「50周年記念式典」が華やかに挙行されました。皇室からは三笠宮彬子女王殿下にご臨席いただき、祝辞を賜ったほか、三師会会長によるパネルディスカッションが行われ、そして政策提言書を田村憲久厚生労働大臣に手渡しました。

1961年に産声を上げた国民皆保険も中高年の仲間入りを果たしました。この国民皆保険の健康寿命を長く保つためには、「株式会社を医療経営に参入させないこと」が前提条件です。しかし、そもそも論のとき、薬剤師会不在のまま、国と医師会・歯科医師会だけで話し合いの場が持たれた結果、「薬局=株式会社」ということになってしまいました。最初にボタンを掛け違えたまま今日に至っているのです。でも、私は現在も未来も掛け違えたボタンの話をする気はありません。少しちぐはぐなシャツでも、オシャレで機能的、しかも国民が快適に着てくれるファッション性の高い薬局像を私は考えていこうと思います。

「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へ——。もちろん、田村厚生労働大臣もその姿を遠望されています。となると……。薬剤師が活躍する場が拡がります。平均寿命と健康寿命には10年の差があります。横倉義武日医会長は「かかりつけ医」を根付かせることに全力投球されています。大久保満男日歯会長は80才で4.8本しかない歯を20本に保つ「8020運動」を推進されています。児玉孝日薬会長は「薬剤師の地域社会への積極的な参加」を促す取り組みに着手されます。「自助・共助・公助」——。社会保障には自らが助ける自助、近隣が互いに助け合う共助、国が手を差し伸べる公助のベストハーモニーが求められますが、公助にも限界はあるでしょう。三師会会長のお話を聞き、国民の自助を薬剤師の共助で支えたいと思いました。そして、たどり着く理想郷は「活力ある健康社会」です。アベノミクスによる経済的活力だけではなく、健康的活力も日本には必要です。この健康活力の一翼を薬剤師が担っていきたいと思います。

追伸 田村大臣とツーショット写真を撮りましたが、皇室は写真厳禁です。暑いので着けになることはありませんが、白の手袋をお持ちになり、颯爽と登場なさった女王殿下を見て、「白の手袋=皇室のスタイル」と知りました。私たちも、こういうスタイルを確立しましょう。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子